

令和4年度第1回 那珂市自転車活用推進協議会 会議録

1 日時 令和5年3月27日（月）午後1時30分～午後3時20分

2 場所 那珂市役所4階庁議室

3 出席者

(1) 委員

①直接参加

平田 輝満 委員（茨城大学大学院 理工学研究科 都市システム工学領域 教授）

峯岸 行生 委員（グリーンサイクル・さいと 代表）

堀田 俊和 委員（住民代表（市内在住サイクリスト））

國井 元耶 委員（木内酒造株式会社）

石原 均 委員（茨城県県民生活環境部 スポーツ推進課長）

菊池 直紀 委員（茨城県那珂警察署交通課長）

②WEB参加

絹代 委員（サイクルライフナビゲーター）

海老原 徹 委員（茨城県土木部道路維持課 道路保全強化推進室長）

（代理出席：浜野 博英 様（茨城県土木部道路維持課 道路保全強化推進室 室長補佐））

（代理出席：安島 史征 様（茨城県土木部道路維持課 道路保全強化推進室 主任））

(2) 幹事

企画部長 大森 信之

市民生活部長 玉川 一雄

保健福祉部長 平野 敦史

産業部長 浅野 和好

建設部長 今瀬 博之

教育部長 小橋 聡子

(3) 事務局

政策企画課：課長 篠原 広明、課長補佐（総括） 宇佐美 智也

課長補佐（政策企画グループ長） 和田 哲郎、主幹 坪 義彦

主事 金塚 祐樹

(4) その他

那珂市長 先崎 光

4 欠席者

東ヶ崎 利信 委員（いばらきサイクリング協会 理事）

小寺 隆一郎 委員（那珂市商工会青年部長）

照沼 和之 委員（茨城県常陸大宮土木事務所 道路管理課長）

5 会議内容

(1) 開会

○事務局（和田課長補佐（政策企画グループ長））

本日はお忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今から、令和4年度第1回那珂市自転車活用推進協議会を開会いたします。

私は、本日の進行を務めさせていただきます。那珂市政策企画課政策企画グループの和田と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日の協議会への参加についてでございますが、本日、この会場にご出席いただいている皆様のほか、絹代委員につきましては、オンラインでご参加いただいております。

また、海老原委員につきましては、本日所用により出席できないため、同じくオンラインでのご参加となりますが、代理で、茨城県道路維持課道路保全強化推進室 室長補佐 浜野博英様と、同じく 主任 の 安島史征様にご参加いただいておりますので、よろしくお願いたします

皆様のお手元にお配りしております、配布資料でございますが、「会議次第」、「委員名簿」のほか、右上に【資料1】と記載のあります「那珂市自転車活用推進計画に掲げた施策の実績報告及び今後の取組について」、同じく右上に【資料1 別紙1】と記載のあります「矢羽根型路面表示整備箇所」、同じく右上に【資料1 別紙2】と記載のあります「那珂市自転車ネットワーク路線」、そして、本日追加資料としてお配りをいたしました「自転車の交通ルールの遵守について」、同じく右上に【資料2】と記載のあります「計画目標の達成状況について」、最後に、同じく右上に【参考資料】と記載のあります「市内で発生した自転車関連交通事故の状況について」をご用意させていただいておりますが、皆様 不足等はございませんでしょうか。また、ウェブでご参加いただいている皆様におかれましても、データで資料を送付させていただいていると

ころですが、ご準備はよろしいでしょうか。

最後に、もう1点、お願いがございます。

会議において、ご発言の際は、お手元にマイクがございますので、こちらをご使用いただきますよう、お願いたします。

このマイクは、発言の際に、「トーク」と書いてある青いボタンを1回押していただきますと、赤いランプがつかます。

赤いランプがつかましたらマイクがオンの状態になりますので、ご発言をいただきまして、発言が終わりましたら、もう1回押していただきますと、オフに戻りますので、どうぞよろしくお願いたします。

また、ウェブでご参加いただいている皆様につきましても、ご発言の際は、画面上のマイクのボタンをオンにいただき、発言が終わりましたらマイクをオフにいただきますようお願いたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず始めに、那珂市 先崎市長よりごあいさつを申し上げます。

(2) 挨拶

○先崎市長

皆様こんにちは。那珂市長の先崎光でございます。委員の皆様におかれましては、お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

さて、本市では、令和2年9月に策定された、「那珂市自転車活用推進計画」に基づき、計画に掲げました基本理念「市民が自転車をたのしみ、サイクリストを迎える“ハートのまち”」の実現に向け、自転車にやさしい空間づくりや、交通安全意識の向上に向けた情報発信、そして、自転車を軸とした地域の活性化に取り組んでいるところです。

本日は、事務局より前回の協議会後以降の施策実施状況について報告をさせていただきます。前回の協議会開催の際は、新型コロナウイルス感染症の影響で延期をしておりましたが、多くの皆様の協力をいただき、昨年3月に初めての独自イベントである「いい那珂サイクルグルメツアー」を実施することができました。そして、9月には、株式会社茨城放送と共催で「いばチャリ in 那珂」を開催し、どちらも盛況の下、終えることができました。私も参加したのですが、参加者の皆様に、自転車で市内の名所を巡りながら、那珂市の特産品を味わっていただくことで、サイクリングと那珂市の観光資源を結びつけることができたのではないかと考えています。その他、自転車を快適に利用できる環境づくりの一環として、矢羽根の設置やサイクルサポートステーションの増設についても、目標の達成に向け、引き続き実施をしているところです。

委員の皆様におかれましては、専門的な立場から忌たんのないご意見をいただき、自転車利用の促進につなげていきたいと考えております。

皆様よろしくお願申し上げます。

(3) 委員紹介

○事務局（和田課長補佐（政策企画グループ長））

ありがとうございました。

続きまして、「3 委員紹介」でございます。

今年度の人事異動などに伴い、複数名の委員の方につきまして、変更がございましたので、改めて委員の方々のご紹介をさせていただきたいと存じます。

大変恐縮ではございますが、お手元の委員名簿の順で、「自己紹介」の形でお願いしたいと存じます。それでは、平田会長より、よろしくお願いいたします。

<委員自己紹介>

○事務局（和田課長補佐（政策企画グループ長））

皆様、ありがとうございました。

続きまして、当協議会の「幹事」及び「事務局職員」の紹介をさせていただきます。

<幹事、事務局自己紹介>

(4) 会長及び副会長の選任

○事務局（和田課長補佐（政策企画グループ長））

続きまして、「次第4 会長及び副会長の選任」でございますが、那珂市自転車活用推進協議会設置要綱第4条第2項の規定により、会長は、市長が委嘱をすることとなっております。先崎市長、よろしくお願いいたします。

○先崎市長

会長は、茨城大学大学院教授の平田委員にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○事務局（和田課長補佐（政策企画グループ長））

先崎市長、ありがとうございました。

次に、副会長につきましては、同じく協議会設置要綱第4条第2項の規定により、会長が委員の中から指名することとなっておりますので、平田会長よりご指名をお願いいたします。

○平田会長

副会長は、本日欠席となっておりますが、いばらきサイクリング協会理事の東ヶ崎委員にお願いします。

○事務局（和田課長補佐（政策企画グループ長））

平田会長、ありがとうございました。

東ヶ崎委員は、本日欠席となっておりますが、副会長の指名については、事前にご了解をいただいていることを申し添えます。

それでは、平田会長には、会長席へのご移動をお願いします。

(5) 協議事項

○事務局（和田課長補佐（政策企画グループ長））

それでは、「5 協議事項」に移らせていただきます。

ここからの議事進行は、那珂市自転車活用推進協議会設置要綱第5条第1項の規定により、会長が議長となることから、平田会長にお願いしたいと存じます。

平田会長、よろしくお願いいたします。

○平田会長

はい。それではこれから協議に移りますが、その前にご挨拶をさせていただきます。

資料を事前にいただきまして、進捗状況を確認しましたが、計画して終わりというケースも多くある中で、着々と施策を実行できていると感じました。周りの自治体と比較してみてもかなり前を走っているのではないかと感じます。特に矢羽根については、去年に引き続き、かなりハイペースで整備が進んでいます。国としては活用推進計画を作ってから、時間が経ち、矢羽根が設置されただけで終わってしまうという雰囲気が出てきており、本当にこれでいいのかという議論も起こっていると思います。本日は、国の計画にも参加している絹代様からもアドバイスいただけることを期待していますし、道路空間整備についても、茨城県警から貴重なデータをいただき、客観的に分析を行いPDC Aサイクルを回す体制ができているところがいいと思いますし、敬意を表したいと思います。引き続き、このPDC Aサイクルをうまく回すことで、より安全、快適で楽しい自転車活用環境を作っていくだけでいいと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、「5 協議事項」に入ります。

協議事項の「(1) 施策の実績報告及び今後の取組について」、「(2) 計画目標の達成状況について」、一括して事務局より説明をお願いします。

○事務局より資料説明

(1) 施策の実績報告及び今後の取組について【資料1】

(2) 計画目標の達成状況について【資料2】

※(2)の説明後、【参考資料】についても説明を行った。

<協議>

○平田会長

皆様それぞれ、関心があるポイントも違うと思います。どの部分についても大丈夫ですので、ご質問やご意見、又はご提案等ご発言いただければと思います。

○茨城県道路維持課（浜野室長補佐）

茨城県道路維持課です。1点質問をさせていただきます。資料2の目標2のところ、令和4年度の自転車の利用率が11.98%で減少しているということですが、他の目標値も含め原因の分析等はできていますか。

○事務局（金塚主事）

現在は原因の特定まではできておりません。

○浜野室長補佐

今後に生かしていくということであれば、現状値が目標を下回っているというのであれば、下回った原因に対して有効な施策をとれているかを整理していくことも必要ではないかと思えます。

○平田会長

市民アンケートは何人に対してアンケートを取っていますか。

○事務局（金塚主事）

2,000人です。

○平田会長

アンケートを利用して利用率を毎年確認できるのはよいと思います。数値が下がった原因に心当たりはありませんか。

○事務局（金塚主事）

原因の特定はできていません。

○堀田委員

20歳未満の人の事故が多いということが気になりました。高校までは通学で自転車に乗る機会

が多いのだと思います。歩道を逆走して事故に遭っている事例があるのが非常に気になる。小学校や中学校で交通安全教室をされているとのことですが、父兄もヘルメットの被り方やルールを知らないことも多い。自転車教室をやるときは、子どもに対してだけでなく、親子で学ぶ機会を作ることが大切かと思います。

○平田会長

20歳未満については学生が多いと思われませんが、今の交通安全教室については、どうでしょうか。

○事務局（金塚主事）

事故の発生時間についても、朝と夕方に事故が多いとのことで、これは通学の際の事故だと考えられます。自転車の安全教室の実施とともに、ネット等様々な媒体で交通ルールを周知していかなければと考えています。

○平田会長

現在は、父兄が参加する交通安全教室は実施されていますか。

○事務局（金塚主事）

父兄と一緒に参加するものはありません。

○平田会長

堀田委員は何かアイデアはありますか。

○堀田委員

私は茨城県のインストラクターをしていまして、霞ヶ浦を利用した遠足があった際に、交通安全教室を一緒に行いました。とても好評で、勉強になったとお手紙もいただきました。そういう楽しみながら学べる場を作っていくことが重要かと思います。

○平田会長

峯岸委員は何かありますか。

○峯岸委員

私は道具の販売を行っていますが、しつこいくらいに使い方をレクチャーしています。初めての方には、最低1時間は説明をします。ネットによる販売も増える中で、いかに使い方を教えていくのかを考えると、やはり、堀田委員のような活動が重要になってくると思います。

話は変わりますが、先日、自転車で通勤中に、轢かれそうになったことがありました。午前7時台でしたが、交差点に差し掛る前に自動車に追い越されました。その車は、私を追い抜いた後すぐに、交差点で左折をしたため、巻き込まれそうになりました。ドライバーは、自転車は遅いものだという固定観念を持ってしまっているため、「思いやり運転」だけでなく、自転車は意外にスピードが出るものなのだと周知していく必要があると思います。

また、田舎道を走っていて、対向車がいるわけでもないのに、横すれすれを通り、追い越しをされたことがありました。嫌がらせだったと思います。そういった話を、頻繁にフランスに行かれているお客さんに話をしたのですが、フランスでは、自動車が自転車を追い越すときは大きく避けていくそうです。また追い越しが難しいときには後ろでじっと待っている

とのことでした。こういったことを、いかにドライバーへ啓蒙していくかが大切なのだと感じました。

○平田会長

ありがとうございました。どうやって伝えていくのがいいのでしょうか。1. 5mの距離をとって追い越しをするということをいかに伝えていくか、うまいやり方があればいいですね。絹代委員は何かアドバイスはございますか。

○絹代委員

まず、今回いただいた進捗状況について、コロナ禍の中で、これだけ進めることができているというのは、素晴らしいと思います。その前提があった上でのお話になりますが、ルールや自動車と自転車の共存状況について、自転車を尊重する意識が日本にはないのが現状です。横浜では、自転車のために路肩を空けてもらえない状況なので、那珂市をはじめ、茨城県は走りやすいと思います。だからこそ、トップランナーとして、ヨーロッパのように自転車と自動車共存することも描きやすいのではないかと感じた次第です。

先ほど保護者にいかに教えるかという話がありましたが、デンマーク式自転車教室の時にもお話をしたのですが、デンマーク式自転車教室は、子どもたちが楽しみながら自転車の操縦方法を体得するもので、その中でルールを教えるシーンはありません。待機をしている保護者の方へ交通ルールを伝えていくのもいいのではないかとお伝えした記憶があります。今全国で自転車のルールを伝えていく中で、ルールを知らない人はあまりいません。アンケートでも、ルールを知っている方と実践している人の数に大きな差があります。右側通行してくると、交差点で接触する可能性が高いということを、模型などを使って示してあげると、皆さん左側通行を実践するようになります。なので、なぜそのようなルールとなっているのか、しっかり大人にまで響くように伝えていく必要があると思います。

また、ヘルメットの購入に補助があるとのことですが、白くて空気穴のない、強制感のあるヘルメットを被ってきた方が、ヘルメットへの嫌悪感があり、あまり被ってくれない現実があります。中学生のヘルメットについて、被ることに抵抗のないものを選べるのが気になりました。ヘルメットを被らない人が減らないことの裏にはそういった原因もあるので、現代の感覚に沿った提案をしていかなければいけないのかなと思います。

自転車の利用者が増えないことについてですが、茨城県でいいアンケートを行っていて、どんな資料を基に茨城を訪れたかを、サイクリストと非サイクリスト向けに聞いたものがありました。サイクリストでない方は、動画を参考にしていることが少なくなっていました。そこで、那珂市がどんな広報か見てみると、出てくるのが動画とサイクリングマップだけでした。

もし、自分のお母さんに自転車に乗ってみたいと思ったときに、動画とマップだけでは情報が足りないですよね。茨城県のアンケートでは公式サイト割合が高くなっていました。そういう何度も戻って見られるようなものが有効かと思えますし、利用者を増やすためには、もう少し情報発信の方法を工夫してもよいのかなと思います。

○平田会長

もし、茨城や那珂市が走りやすいのだとすれば、それを発信していけば、自分たちが自転車に優しいということを自慢に思えるのではないかと思います。ルールについてもおっしゃるとおりで、メカニズムを理解することで、自然に危険な走行はしなくなりますね。動画の話がありました。那珂市は自転車の公式ホームページはありますか。

○事務局（金塚主事）

自転車に特化したものはありません。

○平田会長

そういったものも作って、安全に関する情報も出せるとよいと思います。那珂市の方からは何かございませんか。

○小橋教育部長

絹代委員からヘルメットのことでご意見いただきましたので、補足いたします。ヘルメットの購入補助は、小学生が半額補助、中学生は自転車通学が多くなるため、無償配布を行っております。公費での購入となるため、金額等の制限がある中で、安全性や通気性に優れたものを、教育委員会だけでなく、PTAも含め協議して品物を決定しております。ご意見については、参考とさせていただきます。ありがとうございます。

○平田会長

それは工事ヘルメットのようなものですか、それともかっこいいものですか。

○小橋教育部長

小学生は黄色のものです。ただこれは強制ではありません。個人で好きなものを買っていただくこともできます。

○平田会長

それは自転車用ですか。

○小橋教育部長

小学生なので歩きで登下校をしていますが、自転車に乗る際も被っています。

○平田会長

歩いている時もヘルメットを着用しているのですか。

○小橋教育部長

以前登下校中に事故に遭った児童もいたため、小学生は徒歩での登下校の際も着用しています。

○平田会長

なるほど。水戸でも一部ヘルメットを被っているところがあります。小学生がヘルメットを被るほど危ないのか、と感じてしまうこともありますね。歩行者にまでヘルメットを被らせることに違和感を感じる部分もあります。もちろん悪いことではないのですが。

○先崎市長

以前、私の子どもの同級生が自動車にはねられてしまったことがありました。10mほど飛ばされて地面にたたきつけられてしまったのですが、ヘルメットを着用していたおかげで致命傷は負いませんでした。先日も茨城町で交通事故があり、ヘルメットのおかげで助かった事例がありました。県内のヘルメットの着用率は2割に満たなかったと思います。見た目や暑さの面で被りたくないという気持ちもあるかもしれませんが、命の方が大切だと思います。また、昔に比べると、デザイン性や通気性もよくなっています。

○絹代委員

茨城県の黄色のヘルメットについては、有識者の間でも大きな話題になりました。千葉県で歩道の児童にトラックが衝突した事故がありました。その際、ガードレールを作る必要があるとの議論になりました。ただ、それには大きな違和感があって、ガードレールで守るよりも、速度制限等の車への制限をするべきなのではないかと思いました。ヘルメットを被らなければ歩けないというのは、本当にまずい状況だと思います。ヨーロッパでは、歩行者が一番尊重されているため、車が人を轢くということはありません。高齢者等を含め、全国民にヘルメットを被ってもらえば、確かに死亡事故は減るかもしれませんが、自転車と歩行者が尊重される空間を目指す立場としては、何を目標せよいいか分からなくなってしまいますし、自動車の制限ではなく、歩行者のヘルメットの着用を進めることについては衝撃を受けました。

最近の小学生は、見た目を気にする子も多いですし、ヘルメットのことを嫌いになってしま

うのではないかと思います。歩行者のヘルメット着用が悪いわけではないのですが、一度何を指すのかを確認してみてもよいと思います。歩行者が防御をしていかななくてはいけない街ではなく、どんな方でも安全に歩いて、自転車も活用できて、車も必要な時には役割を果たしていくような、道路のシェアの方法ができる街、そういったビジョンも描きながら、考えていてもよいのかと思いました。

○平田会長

私も同じような違和感を感じました。自転車活用だけではなく、どういった方を優先して道路空間を整備していくのかを意識し、誰でも安心して歩ける街というのを、中長期的に整備していければいいのかと思います。

○先崎市長

それが、究極の理想ではあるのですが、現実では厳しい面もあります。田舎の道で完全に歩車分離するなどの投資を行うことはできないのが実情です。ヨーロッパのように、歩行者を優先する意識が根付いていけばいいですが、峯岸委員がおっしゃたようにわざとすれすれを通る人もいますし、故意じゃなくても、眠くなってしまったとか、朝日がまぶしくて歩行者の列に突っ込んでしまったという事故が起きてしまっています。最終的に、自分の身は自分で守る、その手段がヘルメットであると私は考えています。もちろんヘルメットなしで登下校できればそれが一番だと思います。以前、県議会議員をやっていたときに、安全な歩道の整備を呼び掛けていました。しかし、全ての道に対して投資を行っていくことはできません。そういった経緯があり、ヘルメットの着用を推進しています。

○平田会長

ありがとうございます。先ほどの茨城は走りやすいという話がありました。茨城ダッシュ等、悪い面が取り上げられることもあります。中には自転車や歩行者に優しいドライバーが結構いるのだとすれば、それを積極的に周知していけば、ガードレールやヘルメットに頼らない文化や走り方につながっていく気もします。そこを目指しているということ、併せて示し続けていくことが重要かと思いました。

国井委員は何かございますか。

○国井委員

私の会社でも、自転車で通勤している方と、自動車で通勤している方がいます。矢羽根ができて、自転車で通勤している方は気づきますが、車で出勤しているか方はなぜできたのか分かっていません。認知度をより上げるために、ドライバーに対する周知を進めていく必要があるかと思っています。また、イベントの実施については、産業祭などの人が多く来る場面でイベントを盛り込んでもいいかと思いました。

○平田会長

確かに矢羽根を設置し始めてから約2年が経ちますが、矢羽根が何なのか分かっていない方も多いと思います。そこに対して何か行っていることはありますか。

○事務局（金塚主事）

矢羽根の周知がされていなくてもったいないというのは、自転車を利用されている方から、市のホームページをとおして、ご意見をいただいたこともありました。今回のホームページや広報紙での周知も、そういった声があった中で、より広く周知をするために実施をしたものです。また、国井委員からご意見をいただいたように、市内外の方が集う場所でも周知を行っていく必要があると感じました。

○平田会長

道路を走っていれば自然と、矢羽根の意味や、交通ルールが分かるような仕組みを作れたらよいですね。ネットワーク路線の入り口にそういった看板を設置するなど有効でしょうか。

引き続き周知については検討していただければと思います。

矢羽根の整備箇所についてざっと見ましたが、自歩道を解除しないまま矢羽根を引いているところがほとんどだと思います。ルール上はどちらも走っていいということになりますが、自歩道を走るときは、車道側を徐行することになりますが、そのの分りにくさもあります。菊池委員は、矢羽根の周知や、自転車の走行位置についてご意見ございますか。

○菊池委員

矢羽根については、なんで設置がされてるのかといった問い合わせが警察にも来ております。矢羽根のマークの隣に自転車のマークを付けると、自転車の走行位置として認識しやすくなるのではないかと思います。子どもの自転車の乗り方について、親も分からないと教育できないというお話がありましたが、中学生に対しては4月から交通安全教室を実施していくところです。その際に、親も参加をできれば、より事故防止の効果が高まると思います。

○平田会長

去年に引き続き、詳細な事故のデータをいただいておりますが、車道順走の割合が一番高くなっているのが、気になるころではあります。車道順走をしている台数が多ければ、事故の事故の件数も増えてくるため、原因があるかは分かりません。また、矢羽根を引いた箇所でも事故が起こっているのかも気になりますね。今後可能であれば、事故の箇所についても確認をしていただいて、何か事故が多い原因があるのであれば対策をとっていく必要があるかと思います。警察の方で、那珂市において特徴的な傾向があるかどうかは分かりますか。

○菊池委員

今のところ分かりません。

○絹代委員

走行状態のところを見ると、車道逆走の事故は、交差点ではなく車道で3件起きていて、正面衝突の事故になるのかと思います。5年間の件数なのであまり多くはないですが、正面から自動車と自転車がぶつかるというのはかなりレアケースだと思いますし、どんな状況だったのが気になります。

○平田会長

確かに気になりますね。もしかすると非常に狭い道路の可能性もあります。なので県警からデータ提供いただけるのであれば、要因を分析したほうがよいかと思います。

○石原委員

先ほどの矢羽根の件、また、車間距離の件について、県でも課題と捉えております。そこで、茨城県警と協力をしまして、免許センターと警察署での、免許更新時の啓発動画に自転車の内容を追加していただくよう調整しまして、概ね内定をいただいております。そのため、最低でも5年に1度はドライバーに対する注意喚起を行えるようになっておりますので、その点ご報告をさせていただきました。

○平田委員

ありがとうございます。それはぜひ行っていただきたいですね。冒頭でもお話しましたが、どうしても整備費用がかかるので、既存の幅員の中で矢羽根を引くことになるのは致し方ないところでもあるのですが、本来は専用通行帯や、路肩を広げて安心して走れる空間があったほうがいいですね。道路の改良等のタイミングがあれば、ぜひその機を逃さずに自転車通行等も検討してほしいと思います。中長期的には茨城の主要な道路で、ネットワーク化された自転車の通行空間が整備されている姿を期待しています。数年で実現はできません。水戸市では、車線幅員を少しずつ絞って、路肩を広げ、矢羽根を引くなどしています。那珂市は写真にもあるように、車線の幅員の中に引いています。どちらがいいとは言いきれませんが、茨城県では、ある程度路肩に幅があるときは路肩に引き、幅が足りない場合は急

に車道に引かれるといった不連続なペイントがされていることがあり、それが気になるところでもあります。茨城県のガイドライン改定などがあつたら、それに従いつつ、縁石をずらすなど、路肩を増やす努力についても検討をしてほしいと思います。

矢羽根の整備の仕方が悪くて事故につながっているのではないと信じてはいますが、もしもそうだとすれば対策を考える必要があります。自動車がスピードを落とさないままで、自転車も車道の内側を妙に安心しながら走ってしまつて、それが事故につながってしまつていたりすると問題です。

茨城県道路維持課の方から、道路整備について何かコメント等ございますか。

○茨城県道路維持課（安島主任）

平田会長からあつたようなご意見を踏まえまして、今後新しく作る道路については、自転車道を考慮した用地の買収するといった取組みも始まつております。また改修のタイミングでも、路肩を広げるなど、自転車走行環境の再整備を視野に入れながら進めていければと思つております。

○平田会長

ありがとうございます。茨城県では新しい改良区間では広い路肩があり、走りやすくなつています。それを継続していくことで自転車が走りやすい環境が整ってくるかと思つます。指導でもそういった取組みを行つていただきたいですね。

矢羽根の設置は、市道が26km整備済ということで、とても速いペースで進んでいます。那珂市内の県道についても、ぜひ進めていただければと思つます。茨城県でも、ここ5年間で、各市町村から計画が多く上がつてくる中で、整備する路線の整理ができていない可能性もあると思つます。もし、そうだとすれば、見直しのタイミングで県と協議を行い、どこを優先的に整備するか、協力してほしい箇所などを伝えていくとよいかと思つます。また、沿道の市民と、意見交換や整備形態についての勉強会を早めに始めていただいて、5年後、10年後につなげていただければと思つます。県の方々も引き続きご支援等よろしく願ひします。

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。それでは活発なご意見ありがとうございました。期待や応援のメッセージも多くありましたし、また1年間頑張つていただきたいと思つます。明日は茨城県の会議に参加しますので、本日の内容も踏まえて臨みたいと思つます。

協議は以上となります。進行を事務局へお返しします。

(6) 閉会

○事務局（和田課長補佐（政策企画グループ長））

平田会長、長時間にわたり、慎重なご審議をいただき、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、令和4年度第1回那珂市自転車活用推進協議会を終了いたします。

皆様、本日は、大変お疲れ様でした。

また、WEBでご参加いただきました 絹代委員、浜野様と安島様におかれましては、大変お疲れ様でした。

以上